



筑波大学体育・芸術図書館主任専門職員時代に日本美術シソーラス（分類事典）データベースをパソコン検索システムとして構築し、大学の大型計算機システムへとデータ移行、数年後、Webページ変換を進めていた頃です。もう20年以上昔の話です。図書館学教育が図書館情報学教育へと転換するので、コンピュータ関連授業を担当すべく本学にお世話になりました。

情報検索演習やコンピュータによる目録演習など、実務的教材のない時代、全教材をWebページで作成しようと決意し、実行しました。

科目数が多く、また、コンピュータ技術の進歩が速く、科目によっては毎年全面改訂が必要でした。図書館利用教育には音声によるサービス、動画によるサービスや字幕変換等のマルチメディア放送技術が必要で、かつ、教材としての分かりやすさが重要です。必然的に教材作成に時間がとられますが、研究論文は「芸術情報」データベース化の諸課題と「アクセシビリティ Webサイト」関連が主でした。

18才で国立大学図書館に勤め、教員生活を併せると52年間の図書館生活。基本はいつでもどこでも誰でも知的冒険を味わえる「電子図書館」化。今後もライフワークとしての日本美術事典デジタル化は進めます。また、少年時代からの夢だった「旅に出て自然に浸り、絵を描き、作曲し、仏像を作る画僧のような生活」を漸く送れるなあ。画像は10年前の展覧会で発表した「瀧不動」の一つ、竜頭の滝です。「どこから来て、どこへ流れるか」

これまで出会った学生さんや教職員の皆様や、すべての人々に感謝しつつ。



チベットにて20年前